児童数配付

No.562　4月号　令和8年4月6日

西東京市立東伏見小学校
校　長　中嶋　太

かけはし

学校ホームページ　更新中！

学校HP

一人一人のよさが生き、共に学び高め合っていく

校長　中嶋　太

お子様の入学・進級、おめでとうございます。本日より、いよいよ令和８年度が始まります。子どもたちは、新しい学年、新しい学級で、新しい仲間と学ぶことに、胸を弾ませていることでしょう。ぜひ、お子さんの思いを受け止め、子どもがプラス思考で学校生活に臨んでいけますようご支援いただけましたら幸いです。今年度１年間、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本校は、目指す学校像に「一人一人のよさが生き、共に学び高め合っていく学校」を掲げています。「一人一人のよさが生きる」とは、一人一人の子どもの個性を大切にしていくことです。一言でいうと、「個性の尊重」です。また、「共に学び高め合っていく」とは、そうしたよさを認め合い、自分のものとし合うことで、集団として成長していくことです。「学ぶ」の基本は、「真似（ぶ）」です。他人のよい行いを真似して取り入れることで、皆が育っていきます。一言でいうと、「共生の伸長」です。

今から半世紀ほど前、私が小学３年生の時のことです。４月最初の図工の時間に、花瓶に活けられた花を描く活動がありました。たくさんの花びらがある中で、私はユリの花びらを特に丁寧に描きました。花びらが白色系なので、背景を絵具で水色に塗り、浮き出るようしました。作業に夢中になっていると、先生が回ってきて、「先生より上手。」とさも大げさに褒めてくれました。他の子も集まってきて、「すごい。」と声をかけていきました。私は、恥ずかしさのあまり真っ赤になって描き終えました。このことがきっかけで、私は何事にも一生懸命に取り組むようになったと自覚しています。また、他に頑張っている人がいれば、自然とよいところに目が行き、取り入れられることは自分のものとするよう努めるようになりました。

この幼き日の経験は、後日、自分が教職を志す動機となりました。いつしか、子どものよいところを見つけ、認め、励ます先生になりたいと考えるようになったのです。そして、このことは、教師になった後、目指す学級像へとつながっていきました。一人一人のよさを認め真似ぶことで、集団として育つことができると、展望を抱くようになりました。「一人一人のよさが生き、共に学び高め合っていく学校」の基は、「一人一人のよさが生き、共に学び高め合っていく学級」であり、その原点は自らの幼き経験だったのです。

学校は、様々な子どもが切磋琢磨する場です。例えば、トラブルがあったときに、お子さんの声を丁寧に聴くことは何よりも大事ですが、鵜呑みにしないことも大切です。多様性が叫ばれる中、違いを認め合う風土づくりが今こそ求められます。違いを受け入れ、肯定的に評価していくことで、社会性と共に人権尊重の精神を育んでいきたいものです。一人一人の子どもの健やかな成長に向けて、教職員一同頑張っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

☆４月　生活目標　「きまりをきちんとまもろう」

東伏見小学校には、仲良く、楽しい学校生活を過ごすための決まり「むらさきの子」があります。登下校や休み時間の過ごし方、持ち物など、自分で考えて行動することができるよう、指導してまいります。

生活指導部

11 住み続けられるまちづくりを